源注拾遺

内閣文庫

源註拾遺卷第一

大意

一 仁徳紀初めの大部分は河海の説を採り、雄略紀の
半ばは、草案の説、伝写の誤説、日本紀、万葉集などなり
とぞ。ひらがなにて書きたるものなり。後の
人、くわつぐわつ、ちまんなる物どもなれども、
作りなべて人の心、ものをもつて入れ、松浦を
考へ、ひらがなにて書きたるなり。偽の物語より
出来たるなり。たゞ此一書のみ、偽の物語より
出来たるなり。それ行やまりをうまどをもつまと
まろがよりてつくしむべきなり。
一 明らかに褒貶を資治通鑑の文勢、司馬光の筆を法

内閣文庫

ひがごと〳〵○又按 此説を据るに通鑑に趙宋ノ英宗
治平三年に出。後冷泉院。治暦二年にあたれば。此もの
がたりに出くるより六十餘年の後なるべし。
一 拾芥抄上末。源氏物語目録部。第三十三
十 明石 浦伝 卅二 東屋 狭席
右此ならべたるは。明石は巻の次に。浦伝は巻の次に。東屋は巻の
次に狭席は巻なる歟。狭席はみな別名なれど。おぼつかな
かし。
一 更級日記云。東路のみちのはてよりも猶おくつかたに
おひいでたる人。いかばかりかはあやしかりけんを。いかに思ひ初
めける事にか。世の中に物語といふもののあんなるを。いかで
見ばやと思ひつゝ。つれ〴〵なるひるま。よひゐなどに。あねまゝ
はゝなどやうの人々の。その物語。かの物がたり。ひかる源氏の
あるやうなど。ところ〴〵かたるをきくに。いとゞゆかしさまされど。
わが思ふまゝに。そらにいかでかおぼえかたらん。いみじく心もと
なきまゝに。等身に薬師仏をつくりて。手あらひなどして。
人まにみそかにいりつゝ。京にとくあげ給ひて。物語のおほく
候ふなるあるかぎり見せ給へと。身をすてゝぬかをつきいのり申
すほどに。十三になる年。のぼらんとて。九月三日かどでして。いま
たちといふ所にうつる。云々
又云そのゝちなにとなくまぎらはしきに。物がたりのこともうち
たえわすられて。物まめやかなるさまに。心もなりはてゝぞ
などておほくの年月を。いたづらにてふしおきしに。おこなひをも
物まうでをもせざりけん。このあらましごとゝても思ひしこと

源注上

が　もきさめ学よりんべりうけるあふぎもるるやひとる源氏
ぎりりめ人をきめ学よおそーけるやとそうとる大将は字治す
かくしとをたまつべおもれ学れり。
又をいとくやしとめるがそちたりとる物ぐるるたりけり光
源氏めどけやるるおそをんひとをやしにひとくびみとをるる
ちたとまつとく。源氏は女君はやるるふまるかくーをを
らるとく。花紅葉ふ月をとをりぐるくーふがとぎみくめるあた
かるんは又めどを問くまちんとうせめとだるりおりひづをを。
るるまーおどるもおぐーをり。
又をかるおるおりひるんじたるをふるめどるあんとふどをかを。
をく物ぐるるめどりとあるくんせたるまにぎるおめづるるく
さるるるく。法はやるるとるるつぐたはきるるくはやるるを。

源注上

二

人をかるをひるぐもををびるふるぎるやあるれるるるるる
ををるるまびるるぐをりるるくやるるくーるがやるるくるを源氏
はは物がるる。一はるるたるるるくをるるををんとふはるるる。
おやはるるるるるるるおりるるるるるるるるるるるるるるるる
ていぐるんるるふ。此物ぐるるるるるるるるるるるるるるるる
をるくおりひるびるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
たるるるるるるるたるるぐるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
くるたは物るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるんるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

さだめつるを見て、なにもえびんなりとおもふ。源氏を一の書て
まなびしく人をまどはしむるちからあるものなりとて、ひとつ
のかゞみつくりたるむかしさる紀州のゑもかきかへせん、ひたすら
日ぐらしじよろいめいさめんたるうきのたもちてかもしてまなびを
見る人皆外にならぬけれど、おほかる名もがなとおもひしらう
うみそいとしたるまおりのよ蔓にいくさつゐ書ける儒者は
これある恨みけさきたるげきく。法は五十年をふくみゐ余と
いへるもみえず人みなかりそめにもおもひしかば、それは
かくるを事をみとるをあやしくわかるまじくとへるきぞうし。
さかりになれぶかちのあるめくみくがくもいうくなくなり
みんひく源氏のあはれ、宇治の大将のつたへの女君の
やうまさりけるおもひけるむまがいとをかしくかゝまし。

又云。ちかき世の精をもちてぞ、その自京をのがれひそみたる併
を称んじたてまつりてかしこく宇治の後のはかなきを、母の
くちをしとおもふとも、のちにも人の教をもちひるゝなるむさぼり
したる実に忘れて袖をうちかへしつゝあはれなるかたの書をも紙
おしかゞみてやはらかに書きしをもよせてぞおもはじむるとなりけりて、いと
いみじうすゝみたるさはるはむかしきえつゝつくづくと見るに
むらさきの物がたりは宇治の宮のむすめをもはなれたる紙。
いつはるかたにもそれまでもさすがにたいへんとあらしく書き
かざりしけまさりしたるなりとおもひつゝうらうじて後にく
義の法ありとは宇治殿をいひてみえたるまことに紀伊の女
君のくれぐれやかりけんるかなといひてかたれ。
こゝにふるきものはかりのころをあらはす。おほく更級日記

[illegible]

一 狭衣

かくばかりうきをもなげくこがらしを[illegible]たつのたてぶ[illegible]
[illegible]

又云源氏文[illegible]

[illegible]

又云。[illegible]

[illegible]

右狭衣云。源氏とひとしき歟。爲時作[illegible]ひける歟。[illegible]

[illegible]

一 平刑部卿康頼入道法名性願[illegible]

妄語戒ととなくこそ[illegible]

源氏物語を作[illegible]

[illegible]

経ようおく帝のみんしよく人なほ夏つかれたけるよくよくさ
よろこびて宮ゆうびく。一日經をかき。供養しよあそびてあそびく
そのかんねんとしの人をこうきこと。家くは業なとしてはびおて
そのものをよみよく詠でとおもわく行くわどのことを見たりけるにこそ。新
勅撰集 鈔義に。紫式部かたかく結縁經供養をし
侍るなるよし。藁のまぬ啼る鳥をとめしてまてよくよく。
　法の為に為をものぞきん世の中がをそれもの世の中のなかりけり　權大納言宗家
隨撕みさとは行る世の人に源氏をよくよく行なかの人。切徳をもらて。
詠をもてひけるにや。一篇みな表白にて此時つくられけるとぞや。
一 袋草紙に。古のものからのこりを撰す為にいるるさをしか
とこそや。後拾遺雜一。藤原爲時か。
わすれじのつもりもありとおもひし山里にもつるものと月をみて詠

是を源氏物語なりといへるの物語にはつりねと思ひしと侍る
なり。件は物語を。紫式部が所作なりといへる。いかなりける
今の本にみなそのはしにかきたるなれはいまも人のいふ抄
なり。おほつかなきことなり。○ 河海抄 紫式部か家の集に源
氏にをかしけれはとこの源氏にをかしきことなれは紫雲院は
なきなどいひつべし。源氏の繁栄に入りて無量もなきことのなりく。
式部がなかむと入ねとかして。又かうらいを用ゐるまや。為時は
源をも古のもかしかとしきをなかまの為一説に為時と
雖ももうすゑや。古にも物語のいかも業に入る伊勢物語は
常なるのなり。拾遺集にも二。
ロ　思ひわびやるかたなくもなりにけりあはれつめのまをと見ん人は
やがてもながしとのみなる神のかくれしをかへるものつもなれん

此二首にてもよくわかる物語のこゝろ。

一 栄花物語といへるは。紫式部が娘の大弐三位がかきたると云へど大弐三位は源氏の紫式部がむ

一人なりけり。権記に見えし大弐にて侍りしは。此紫式部が

むすめ越後弁の母なりけり。

一 明星抄に。此源氏の物語は。源氏の君を高明にあてゝ書るは

西の大臣高明公也。すなはち○乙女 此説信じがたし其故は。

此物語は。寛弘のはじめに作りといへり。拾芥抄に安和二年

より寛弘元年まで三十六年なり。紫式部の卿なりし時まで

なりし故に。思ひ較べけるに。何十年かへだゝりぬ。

紫式部日記には。寛弘六年記すなれば。五十五歳もあるべし

餘にも成。宮仕も憚しく。大弐三位を生みて後に。おのが筆を綴

一 更級日記にも。源氏の五十餘帖といへり。六十帖と

いふ今流布する本に。雲隠。浦伝。桜人。巣守二三帖をまし

たる数にて。大数を挙て六十帖といへるなり。天台

六十巻に准じたりといへども。此物語の中に天台の心

まつはれりとは。何かしらぬ台家にかゝはれる人の説にて

いふ数。栄花物語にも仏法の深き事を書たり。女

とても昔は法の道に深く。よろしき人多く有しなれば。大事を知るほどの

人も有けるにやとぞ思ふ。檀那院贈僧正より一心三観の

血脈をも相続したりしなり。紫式部天台法の事を知

とも。檀那院に書し法師さへ此ひとり得たりけると誉ひ

日記にも。ことごとしく数珠引き。経よみなどは女に

似合ぬ事なれば。さることも思へど。それの人はまかべからず

りし説はおほかたあたらぬなるべし。

一 或人が名を、寒にあるなど、一説あることなれども、宇
たる物なるべし。日記は公任の事。更級日記に或
の物語といへるは是なるべし。
一 或人は、書はじめし時、見し帷帳をもてしるせり。又或時に史
記をうつしけるに、或物をそへ書ける故、源氏の名
をのせたる事の有し事にや、或説に書付て、給しと或時、女の筆
名を学びたまはむとて、その名を知りぬべし一の字を書ける。真名
ままに、かくまで紀の事を知りぬべけるよし、彼日記にも見えたり。
一 此物語、都て題号の事、深くとりて、萬葉集の例に付て或が作。
あれども人のしるせるは、皆一定して信じがたし。
一 定家卿は此物語に或ことを、そのかくも物に記しおきたる物の中に何
ならひ侍人なるもの、ものしらざる人なり。古今密勘に見

えたり。此奇妙なる事ども、みなすでに此物語に見えたるべし。然
るを、此物語をよむ事、大事をなしたる人々を見てさとし
或事の、此物語をとりて人々を引きならしてもせんとは、むつかし
けれど、其身を安くせむとて一部始終を読みて付くか、もしは其をよ
ぜらるる人もあるべし。又西の王賢に比して唯くの人であるべし
の、かけまくもかしこき所を得てわが身や地獄に入りけん、源
氏の物語を書きて何にか行きけん、又をかし事付くのをとぞ、何のよしぞ。
家の事に付きてかの文の何の道ぞ、白居易のは彼集に物
たちまちなる人は困窮に付て何のよしぞ、萬葉集の事なり。
中にも此人に御ためし乃らせよ、筆を大かた物に書す
物来の宝をのせたるの家の中には白居易は
に近々くらしの後度を人つづらしも、顔をよくしつらん

春秋の褒貶(ホウヘン)は。善人のよき行。悪人のあしき行を。両ながら
しるしおかれたれば。後の人のかゞみとなるべし。是を勧(クワン)
善(セン)懲(テウ)悪といふ。源氏物語は。一人の上に善悪を
まじへかけるものなれば。何ぞあながちに春秋に比せん

一古抄に。台家の化義四教の法を。源氏の巻数にあはせ
はかりごとかける物語と。いへるも。ゆゑなきにあらねど
抄を綴し紀綱の書くまふ。源氏によりてひとつにまとめて
しるところのひとつに物語の中に。ものゝあはれを知る心を
歸たる物語のたぐひにもあれど。そのかみの物語は
くしらるゝにつきて。その趣意をしるすなり。又あまた
くしき物とせんはいかゞ。

一勅撰の集の中に。此物語の名出たるは。千載集恋四。

寄源氏物語恋といふことをよみ侍りける。
こゝろかけたる事の上につゝみてもあまりてこそはいはれけれ　皇太后宮大夫俊成
うき身をぞ忘れてかゝる中なりせばいかでか袖は月に洞れけむ
新勅撰。恋二。
源氏の物語をみて。其のこゝろをよみ侍りける。
ちゞのあはれをしるよしもなくてもしのぶ人はあらまし　從一位麗子
続古今。雑中。源氏物語の巻々のこゝろを人々よみ侍りける。
源氏の物語をみて。昔思ひ出らるゝ源氏の浦浪　月花門院
人しれず源氏の物語の巻の名をつけても。袖のぬるゝかな　大炊御門右大臣
続後拾遺。源氏の物語の巻々の名をよみ侍りける中に

神輕い死せし男子をうしなひ者哀れなるものまれなりけるよ　[illegible]

如何ぞ事ある名はうちうるがごとく。

かゝる人をもかゝる事の小鷹狩日もゆかぬよりなりけり　清人

彩筆古今集。義傷。源經信卿。月すみてなほ秋をうらみ

義行ものゝ。源氏物語の書くこと。疑ふべくひとしくこそ。

紀。桐壺巻書きはじめ

ひとしく虫歌ゆゑ人をもかなしがるべきものなり　紀

如何ぞ可。殺伐を。

[illegible]

一　うるはしのゆけばうみのうらに住吉物語よさん。

長恨歌行。五十餘帖の中にかくのごとくあるべきを

如何ぞ。物語。りんちゆ。詩文ふ長編ゆゑ。

はなはだ[illegible]ものなくも。意味得ざりけるかな。

一　毛詩。周雎。螽斯。苦竹。麟趾。后妃。德化。

鄭衛。侍人。淫放。[illegible]。美惡。[illegible]。紀文

章。[illegible]。鄭衛。[illegible]。紀物語。人々

[illegible]。美惡。亂。[illegible]。[illegible]。紀

べゝ。定家。可。[illegible]。言葉。かくのごとく。

一　越後守。時。[illegible]。載前守。[illegible]。物語

[illegible]。別。[illegible]。[illegible]。物語

かゝるの[illegible]。[illegible]。紀。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

ききかうしがかるるしぞのよみりがきみかゝると詠じく。おもひ
せく侍しかへるまでと思ちおまつりしたりけるの友みり給ひ
うせくちくさとあと給ひがたの事をいて何をれかまつけれは
侍しがいまうようめせて、侍りとぞ申たりしが行りがまた
とふはけさへしかる法の方をかり、為時こそ、父為時の越後守
なるに侍ゑると任所にくだりひるに、京に侍ゑる斎院の
中将ぞかよひけるよつりける。
都にもこひしき人のおほかればなほこのたびはいかむとぞおもふ　藤原惟規
後拾遺集に、此歌をのせて、詞書に越後のくにゝまかりける時に、父が為時が任國に
まかりくだりけるに、ゆくほどに、わづらひてよみ侍りける。文章生式部丞蔵人
と。藤原惟規は、父が任國へくだり侍りけるとて。
此歌はいひたつ人に越後守なりける為時がむすめの紫式部のあにをさく　紫式部の兄

あり父為時よつなくがゆゑ赴任、斎院へまゐるべきにもあらず、さりとて
かりそめしく、然義のが垣津山のくよあらぬことも。父が任國に
くだりの日に付よあるべし。
一 為時は、菅三品の弟子にて、詩文をよくし、其名世にたかく
ありけり。惟規も、後拾遺より以下の入集、末代集を
に、斎名したり。
一 此物語、河海抄に物名、普通に假名ぶみを書ひしく、其文あり
ありそよきよばたてたくのくなし。たとへば堪ふる字の假名に
太布（たふ）ときとを太（た）、由（ゆ）とかける類なり。
一 新続古今集雑中に、源氏物語の物名を思ひ
ある物名の書ぶりは侍るとなくやきこりける。
法にあく詠みにしてたまひたる其歌あるべきおもひれ　藤原雅朝詠

[illegible]

一 此物がたりの中の詞、未だ集に入らざる、新拾遺集歌なり。

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 清涼殿の西の妻、[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

いとをかしくぞ侍る。このふる里の女のまへにてだにつゝ
み侍るものを、さる所にて、ざえさかしいで侍らんよ。此
式部丞といふ人（惟規）の、わらはにて史記といふ書をよみ侍り
し時、きゝならひつゝ、かの人ハおそうよみとり、わするゝ
所をも、あやしきまでぞさとく侍りしかバ、ふみに心入たる
おやは、くちをしう、をのこにてもたらぬこそ、さいはひなかり
けれとぞ、つねになげかれ侍りし。それを、をのこだにざえがりぬる
人は、いかにぞや、はなやかならずのみ侍るめるよと、やう
やう人のいふを聞とめて後、一といふもじをだに書
わたし侍らず。いとてづゝにあさましく侍り。よみし書など
いひけんもの、目にもとゞめずなりて侍りしに、いよいよかゝる
事聞侍りしかバ、いかに人もつたへきゝてにくむらんと、

はづかしさに、御屏風のうへにかきたる事をだによまぬかほ
をし侍りしを、宮の御前にて文集の所々よませ給ひ
などして、さるさまの事しろしめさまほしげにおぼいたり
しかバ、いとしのびて、人のさぶらはぬもののひまひまに、
をとゝしの夏ごろより、楽府といふ書二巻をぞ、しどけな
げながら、をしへたてきこえさせて侍る、かくし侍り。
宮もしのびさせ給ひしかど、殿もうちもけしきを知
らせ給ひて、御書どもをめでたうかゝせ給ひてぞ、殿
はたてまつらせ給ふ。まことにかうよませ給ひなどする事、
はたかのものいひの内侍は、えきかざるべし。しりたらバ、
いかにそしり侍らんものと、すべて世中、ことわざしげく
うきものにぞ侍りけり。

源氏物語のうち、はるかに、ちりぬべきものとて、ながめ給へるついでに、梅の枝に、

もろともにあはれと思へ山桜花よりほかに知る人もなし

とあるのを、名のりたまへるなるべし。

人々なきさまどもの物をたがのあはれを知る物ぞ、人のしけんあはれとはいかでかは知る物ぞ。

一三箇大事とは、源語秘決に、仮名の、ひらがなを、三之一といふなり。たとへば、三夜或も物語はじめ、雲隠王記をもくまぐまの語もそれ、川社よりいづるなどいふ。又貝物語等あり。はじめ、ひらがなにて、物語の事記は或はまた

源註拾遺巻第一畢

かり。又揚名介は、清性法師は揚名冥白の詞、揚名門をもよく作西入道とづけ入る詞なり。はるかにつづくべしなどいふものくまなくなるべしとなり。

源註拾遺卷第二 以今案二字置愚意初

桐壺

一いとやむごとなきかたにはあらぬが二丁オ 時めきたまひて上宮仕えし給ひ
きとあり止事なきとは 〇今按やむごとなきは詞大なる義なり。
但しまた極やむごとなきなどもいへり。故撰集覽橋部のあと
半ヨリ。なほ猶やむごとなきが美濃紙出へまりくだり侍る道に。
女は家よりやどりくいひつれくきりがくしなどいひければ。二三日侍くやむ
事なれどもよろしうもてなしてとてくそがうへなる事て
ばかり侍けれ。けやむごとなきなどもいへり。なほ猶やむごとなきと
公事なれば。時花やかなるよりはくもとなり。
二三日やどりくもあり。有ちだけれども。唯まことにもえとどまらぬ
なりとなり。又ものなれば日記よりやむごとなきなりとなり。

一 すさまじ　紅梅にあらしのゝちにほふまで 二十オ 抄云。冷眼なる也。
同もさきすさまじく見ゆるなり。世俗に同じ事なるやうなることといふ類。
○今按、帚木に、やう〳〵けはひ火ほのかにかげろふして、ほのぐらきの
ぞうりやうのたまやがりてもいとよそへさるゝにもあはくて。わんさ
すさまじかりしとのたまへばとくまかづるに、夕がほのよきもうらめしの
殿に梅さくら人見ゆるやうに見えさせまし人の心さへやすらかにうかがはり
けるがゆゑにうらみかくしらるゝは、拙く侍らじしかもいとくちをし
らうたくもいうなる事のいまいますさまじき事にはかはらぬたちまちのやうに
給ひけるさまにて、此は紫上にも其同じさまにて心ざし離れさせたまひ
雅君なりつらきげ心うくもなきもなくうすさまのかたはらいたければ
あさましくぞかしと拙かりかんさる。文云。梅の新枝てふより花ちるび
かゝゐける白紅ありけむまことにちらつやかなるかさして鳴石に漂
さまじひやうけさかむとの人は、紫上之めさましとみえたるにや。すなはち冷眼
になるにつけても

一 何を以てすさまじきとやうにすさまじく引つゝとあらぬ也。二十オ ○
仁梅　同花果鈴上にいづる式部がさよなり。類しれねば引けり。木
所にいづくぞ。

一 昼がちなるを 二十オ ○仁梅　和名云。周易説卦云。其於
木也。為堅多心。（メカタコヽロガチナリ。）師説、多心讀、毛古々呂加知（かくある故にさかりなるやうな何がちといふ事）
八かゝる此多の字なり。

一 いまいましく 二十オ ○仁梅　日本紀に、弥留をいましきと
読て。病のおもきなり。篤癃をいかぬまひといふか。いかにもいまいまして
拙り人は病の重きを薄しといふ。常のたぐひを厚しといふにや。
いひなく同じまゝに（いふ）也。つゞけてまだ古き人の御拙がくなり 三十オ

細流にすゞめしらぬ人はそのこゝろばへ、新もむかしもなきものなりと注し
たまへるを。○し梅　細流八月とそゞめあへるにまづ紀ともおもふを
注し給へるは清拙がいふことなれば、日はなかなかやゝ時すぎゆきて見
がたき紀中の事をもいふべきにや。
一　ひとはしかも紀のことを撰びたれど　三丁オ　注よりは紀納につきてけるを
まり。○し梅。此注もあれど、梅草子に、ちかき紀納といふ下の
ひとつは人をしのぶ寿かなしくさしもありて納くることをいでまし
見えて紀ゆべし。竹取物語に、文は立もせずたゞめる傍にいたる居
あへるを写本回ぞなほ付てありし川ものかゝるべし。大気ありと拠けば
まん紀の書紀などにしけるなれといふ類。まん紀は詞のかく、此は字の意
なしと見ゆ、ちかきなる紀も唯ちかき紀を、文もしたのなどよりの義なれば
それやかくも拠ありとあり。甚故はちかきにいなれば同じかたへ人は　十

たる物いつて、ゆくゝ今いつはるきをばしたくすふらてべけれ。
一　大れ云ひ天すらびのゝのべくもうしぎりけれ。四丁オ　細　黍稷非
馨明徳惟馨とのへるおとし人は威徳を臭ひとうあり。○し梅
ありくみに学ありくさもしれるあれどのおほ子さへらかれるよしなし。
めづらしきちとはけるこゝろのいふとうけく弟子梅化窟并に
万葉集の数は字をふかくとよめるもあり朝日はすかに紀
はかりよるど拠ありし下に。多くよみける楊貴妃はしくえらへしど
紀絵師とのへども筆の歌りけるはかれど、ひとふかくひとすゞとよう文にも
え合べくなるべし。
一　よりありくゆうつえさせず事に　四丁オ　○し梅よりありくは注に学別
日本紀学級と給り日本紀に学別はもちぶるありし学級を
菅家万葉集にいへり。

一 此ノ月ヨリ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ

平の字をぐしゃくしゃあらためし事なり。

一 きびがゆ　九イウ　是人望　日本紀　○と物日本紀よりいでたり。

一 あらそでわた　九イウ　奥入うつ時はうりはきさびもみぢうち紅なるそで人をひしらけり。○と物　奥入より引もてゆくこと今考て其　六帖貫五物語

うつ時はうりはきさびもみぢうち紅なるそでにあひにけるかな

一 ちはやぶる　奥入はうつ奥入はうつ　何よりいでたるや。

一 みちのくにまかりたりけるに　十十才　孟津寺花もみぢ　風寒　掛空。

友説なり。掛を二月なり。○と物　万葉ふる。書けるとあること

一 さくらはなちるこの春なりし。掛けるとあるなり。

一 面影よつくもひく　ナイウ　集　日本紀　都　○と物日本紀より

集はいとつくよりあらはれし　推量とする。神集とうんつくん

こゝろあること。紅葉　はいとつくよりあらはれ。又郭の字をつくるこゝ法なるなり。もんぐこゝ常ようなり。日本紀天

一 雪本野　雪本野　風雪　小雪　花　雪吹　雪本野　風　雪本野　雪中　紅　雪本野　雪中　紅　雪吹　雪本野　風

赤深流つゞ家　家　雪　雪　雪

梅ぶ丹を百度とる。○と梅 万葉よりは梅は梅。百磯城。
百師本なとかはる。一説に百度とる事なり。又百度も
ゆゑ定まらぬ説なり。又百度とは大数なるべし
なり。河海は説はつまり。
一 いはくしく宮はしるしなり 十五オ ○と梅 河海より
説なり。は撥は撥丹をいふ。近江文は月角あるを紫色
いつ寄と引きたる説なり。は扶とは傳寫は誤なり。
一 いとをしく 十五オ 按寂寞 和名さびしなり ○と梅 和
名よりさびしなり。さびしくしのびなり。さうくしくしのびなり。和語のさびし
此事歌なり。万葉よりさびしなり。不樂とも不憐とも書とつれ
くなるものなり。さびしくしのびなり。万葉よりあるなり。は字はなと
よ読なるなり。

一 いとうしなりけり 十五ウ 河 影護 和名 ゑりうしなり 紀中は茅なり。
○と梅 和名金く影護は字なり。凡ゆは熊襲は字は
和名よりゆはれなくはゆはゆはゆ

と按 日本紀に才は字を加へて書たれども、かくつゝ知るべき歟。
すべて今はかゝる才の字はとゝ八とゝ唯石ゐ[illegible]
たる。庶[illegible]べし。

一 さぐくしひつぐ[illegible]紀 廿一オ ○と按
新撰万葉に。素性[illegible]寿を別撰とかゝ
たる人也。

一 [illegible]釈[illegible]。[illegible]相たぐべしとも。 廿一ウ ○と按
又[illegible]太上天皇[illegible]
[illegible]
たぐ[illegible]

一 [illegible]
きゝ[illegible]
[illegible]

を賀ハ[illegible]
堪能[illegible]

一 うけぐりく 廿五オ 孟 諾 ウベリ 兼諾 ヒ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]く 廿五オ 孟 執 ヨウナク 奥入 孟 殊 ケタ
丹後家系に。[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 まづさ 廿五ウ 孟 駐（サヒ）近 [illegible]。○七條 [illegible]

万葉 [illegible]。こゝハ孟津 [illegible]

一 あぢぐん [illegible] 安南 [illegible]

側こ [illegible] 廿六オ 註

[illegible] 。○七條 うづがものぐち。

うづがものぐち [illegible]

楓棱 [illegible] 和名抄云。楓棱 孤棱二音

和名抄 [illegible] 木名也。又四方木也。[illegible]

[illegible]

[illegible] 蕎麦 [illegible]

胡瓜 [illegible]

暗推 [illegible]

一 うづくもひ [illegible] 廿七オ 河髮 [illegible]

[illegible]。和名抄云。唐韻云。鬢、計反。和名美豆良。屈髮也。四聲

字苑云。鬢、音選。和名 [illegible] 髮也。

一 いはかうさびと [illegible] 廿七ウ 河 稚（キモノカ） 日本紀 ○七條 日本

紀 [illegible]。稚の字。神代紀 [illegible]

[illegible] 肝稚（キモノカ）舒明紀。

帰本

一 [illegible] 二ウオ 海逸（スキ） 日本紀 數奇 白氏文集 ○七條 日本

紀 [illegible]

[illegible]ハ[illegible]。数奇ハ。[illegible]出。李廣傳ニ[illegible]。[illegible]ハ別
[illegible]。[illegible]人。音訓大和ニ遠ヘ[illegible]。嗜の字。好ハ字。[illegible]
[illegible]字[illegible]。[illegible]。

一 内ハ[illegible]。 三才 海 儀軌曰 [illegible] ○ と抽 儀軌ハ秘密
ハ経ハ中ニ。傳[illegible]。[illegible]法ハ儀軌別ニ[illegible]
[illegible]。儀軌[illegible]。儀軌[illegible]
経ハ。真言ハ家[illegible]。各請来ハ経儀軌[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

一 [illegible]。[illegible]。[illegible]。[

にるなりきこゆ。こゝより時記はのやうにひらがなまじる
一 はかのなるべしちくさ　三丁ウ　○七條はかやはけづくと。乃
阿切奈るなりつゆくかくいつ。堅なるなるつぐはなし
型なるるるいつはなるべ。燈ハ。油なくやきしのるなるべなるべ
とつ。和名ゝ燈盞を阿布良部岐とあり。万葉廿十
八ゝ。燈を。安夫良火とよへり。
一 かるうめくべきもこゝとゆるー。行ゝなバ　三丁ウ　注　頑　ガタワ　厅輪
○七條はんかるゝ。ゆる係字ゝ。泊もあるゝもあるゝびく
誤ゝ行ゝ。島はけ河羽ゝるゝ。紀ゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]

一 [illegible] 四ウ 注 足下也 ○と按 [illegible] 万葉[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 四ウ ○と按

[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 五ウ 尖 オサキ 苗 ○と按 [illegible]二字行よ出

[illegible] 生 オヒサキ [illegible]

一 [illegible] 五ウ オ ○と按

[illegible]

一 [illegible] 五ウ オ ○と按

[illegible]

一 [illegible] 五ウ ○

[illegible]

一 [illegible] 六ウ ○と按 万葉[illegible]

[illegible]

一 [illegible]人の国はよりかうづし。六コウ ○と梅
史記。伍子胥傳に。鞅くをかつらとまり。
一 文をよりまぶ。[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 十二オ

或説[illegible]清[illegible]。○[illegible]梅 [illegible]。[illegible]。[illegible]。[

けるさうといつてもの男ぐるまつみぐきのよしけるこ
まてのぶ義ぐるすれ一段あるよ仕ろう。
一うちひろうこねうし　舌出　柱仙崖　○今按　柱仙崖の舌
出は二字なり。万象亭曰る
百年ホ老舌出而与余年とも我いひこうこ色いまきもも　家持
あれをも、ハ恨者二ハ人ハ嫗なり老女の事くも見るおいつちひろみ。
なりぬとも我ハ見れ仕ろ仕老舌出の相状
説て。柱仙崖と引るよりむこハ。るよかをる大将のいと紀
るき時。そろんるをつや掘つく。ちづくもよるひわしあくこ。
とあるこ。合せく安きとハ。ぶ見をたるこをいつ。ようぶれるつも。
よを変くるそよるハ。ぱの源を知るをいまよるくるつも色ぶ。
ちるくもることいひてぎるけるる色よけるこ。

十三

一そはかりひいこめうこあ紀ものくきんやけるくもよくも。十三ウ
○と按　設ふ。ハ二十七字ふ為ものるとるとの人をるれハ落てこん。
を報ハ。ふるこふをるきぶ見る○こりれたんもやぶくこのひをひあ。
ゆくんんをもかるんきをもをもをぶたん井こちれり
ゆくなをれるるかハ。あここりれつこねるり牧かりみやくく
そはとるこるるぶるハ。ぶいまはあるんまや。
一むげようちゆくぶこをもたるもをやをくるれれるるれを。
おはづくるかるれるこるるれ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
柱仙崖　悪五郎
　　十四才　○と按
ほるもるこぶるこそ見ゆるたのひをはるれるこるかりへぶ
かりくハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
一けぶるれまぶれはは中こ。そはをもるこひれるくるぶをを見。

一いとをかしうしてよりのいはばしらにかくるる。十五オ

○と按　有意（コヽロシラヒ）八日　本紀第廿　天武紀上

一かくるるどいつまれにもはくぶしてず　十七オ　箋　まれ。まれ

るもまたとも読。多載集。むとは芸はまれまれしばしばとも読ハ

笠青はなるは用ふる。又万葉。薄糸はまれ水引はは読ハ

笠帆ふるはなどもまたとも読べし。○と按　初はまれハ多載忍三

ふるはまれはまれくるむとは芸はまれまれまれまれまれまれまれ（約略の説　安藤）

まれハ片帆ふるはまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

仮字づひはまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

いまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

仮字はまれはは法ふるまれまれ。藍を蓋ふまれまれ読はれはまれは芸

はは芸まれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

まれまれまれ。仮はまれまれハ早蕨はは春ふはまれ引はまれまれまれ万

はまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

一却りてぶるはまれまれ　十八オ　○と按　仮撰集春中。

かはまれるは老もかまれまれはは芸ハ芸はまれまれまれまれまれ

一人ふるまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ　十八ウ　○と按　万葉巻十八。大伴宿禰

家持（ハスヒ）歌（ス）史生尾張少咋（ヲ）に贈る歌はは中まれ。

ちさはは花はけるさまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

ふるまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

もはまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

まれまれはは。天地はは。神あれまれまれまれまれまれまれまれ

まれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

一新まれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ　廿三オ　花一説。能宣朝臣ハ。ふるは

はまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

はまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

はまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれまれ

[illegible]紀[illegible]。大和歌四日[illegible]。

一 [illegible]紀[illegible]人女八 廿四ウ 何 嬬嬬 ○と雑 此字何[illegible]

出[illegible]。

一 [illegible]。廿七オ ○

と雑 万葉巻千三[illegible]。 養治乃。思纏[illegible]。[illegible]乃思就

西[illegible]

一 [illegible] 三十オ ○と雑 後撰集。祝詞[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]。七月七日[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。

一 [illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]。廿二オ

○と雑 [illegible]。[illegible]。[illegible]。[

うの業なりとよ。あしとよやく。業よりかくとかくもとせとの人を。

一つきなれいとあくるよりもせ　廿三オ　注　かけうる紀待を。却りひ

ずでしたいもそなさ。ほうもそなさ。○上接　は注うなりば。

いうを。うきめよりいさるうるとつよ同じがら紀待を思ひやくう

しく。作りんとそうよ。紀もなく。業績かくまばるしせざりんも

さまでなく。又ものとさんよまんとそとつなるよりつとなるまう

紀なよ。つうとそうとつなるう。

一　さ者は業なるひとうくやしく。　廿五ウ　○上接　日本紀よ。喧

響は業とやうるひとうあり。洞花集、都上よ。ちはびこ男は

うりけるさめとがうとそ却の業はばよある。

言やあくうる紀物と身まちうかうとてはよ人もうるはりぶ業

一やさうるとうきひく　廿五ウ　注やうくいうとん。又ちづう

ある業なり。○上接　やさうふく。業らうなの花の

物語よ。さとれそもやうくうくうくうへうもうり。俗よそのうく

いるかうんをやうるれば。静なる業とうへうなる。

やうくいうとうば。

一　あらうれりやは　廿六オ　○上接　母業うかくば。母い音うは

ううど。却りやは上略なる日本紀方塚などけううは却りうを

りうとけうとうう。誰らうべし。母を古語よおもうへうは

そうはる恩はおりれやを思うべし。却りやをはうとう。

さうくは業ううどのひさしうどは出うは。はうはけうは

似うれば。さ千却りやは。つ事はううべし。又延喜式よ。身

業うれうるやうう。ことうもうかうへば出うもりや紀。身

接うれうくむさとうむ。ううむううへば身接ばは。和

[illegible]

一 式ヲ文ハ姫君ノ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 四十二才 細

[illegible]

○と接 [illegible] 何[illegible] 吾子 日本紀 ○と接 日本紀

一 [illegible] 四十六ウ 河

[illegible]

一 [illegible] 四十六ウ ○と接 万葉十七ノ大馬

[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 五十ウ 注

[illegible]

空蟬

一 [illegible] 四十オ 注 [illegible] ○と接 蔑

はしらなり。物ともせぬ心なり。きさき和らもせぬ振舞。
おどけなりと注せるもたくさんなるべし。

一くらがるめはしひもをへるもぐ。胸つかるゝ。四十オ ○と接 神代紀云。天鈿女。乃露其胸乳。抑裳帶於臍下。而笑嘘向立。おかしくかけと。

一ちうぞくなるもてなしなり。平オ河傍側 花 飽足 ○と接 放俗なるべし。そを清きそを濁べし。

一かつらぎ。もぐ。たもぐしたるかぶるなり。六十オ五 垣間見 方 ○と接 万葉。垣間見。日本紀 視其私屏。ものかくれ。垣間見なり。蘭はなるべし。何ともあるべし。

一風ふきもせぬ。たくさんひろげくさして。七十オ 細屏風なり

べし。次の段なるべし。○と接 真と廣げ張。つくりもの。くさはらだふしの段。たくさんひろげよ。ひろげけんとひろげ。やく寫し。張。そめ。多。風。風をもむべ。ひろげ。又。たくさんなる屏風をたくさんべべし。又やきもの。紙。屏風とひろげけり。といへるも意なり。

一かめぬ。たくさんたらうすぎね。十十オ ○と接 日本紀 事無九。垂髮手背。おかなり。

一うぢ。蟬。ぬけ。ぬ。ぬ。ぬ

此歌はしらべ。古人はかくの如しみるべし。

夕顔

一 打ちとうがひくむもくしらぬ軒 三十オ ○と梅 徒歩日本紀

一 うちかすみたなびく 五十オ 孟 綱纜日本紀 遷延式 ○と梅

とはなにかをしらぬ。面白きよしいふべし。

細 うちかすみ。頼也。頼母はたのもしなり。たのもしきかたちをいふ。

淀べし。河海。ちきりかたをたのもしいふ。○と梅

河内。かたちをたのもしいふ。○と梅

ちはとるべし。ちはとるべしとは。

まことの面たづしうつくしけれ。

二字とうたくさくさくとうたくさくとうたくさくとうた

云。觝ハ丁礼反。楊氏僕語抄云。以角觸物也。此觝ハ牛相觝ハ豆木之良比。

字。つたへ侍ること。今ハ衝突ばかりをえらびしめぐをせハ。史記項羽傳ニハ。脚のうまを用。離騷ニハ目成とかけり。

一 ゆうめいなる人ハ家をうん侍りけり ハ十ウ ○七夜 つゝまくらなり。政事要略ニ。揚名目ハ引ニ。今と同ニ。

ひびぐる。縁なれば。揚名縁ニ。つのの丸ハ引べ。ひろ。

揚名ハ。揚名ハ。揚名ハ。

一 [illegible] 十十オ 注 調行年[illegible]

○七段 調行年[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 十ヤウ 細 [illegible] ○七段

[illegible]

一 [illegible] 十一オ 阿 [illegible] 秘[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 十二ウ 義 [illegible]

[illegible]

一 [illegible] 十二ウ 孟 [illegible]

○七段 [illegible]

一 [illegible] 十三ウ 義 [illegible]

[illegible]

一 [illegible] 十四オ ○七段 足

一 [illegible]

一 [illegible] 十八ウ 孟東作稼穡 和名 田宅 日本紀

○と梅 [illegible]。日本紀に。田家をなりどころ

一 [illegible] 廿一ウ

○と梅 [illegible]

[illegible]

一 [illegible] 廿二ウ ○と梅 [illegible]。

万葉に言痛しも。事痛しもなどなる

所なり。人はなをいとしもと。事はなをいとしもと。事はなを紀とも。今

一 [illegible]

一 [illegible] 廿三オ ○と梅 不意 日本紀

紀。前表めなくかけしなり。廿三オ ○と梅 [illegible]

一 [illegible] 廿三ウ ○と梅 [illegible]

[illegible]。奥中河なる

[illegible]。万葉第二十巻五

[illegible]。於吉奈敝河波と書。日本紀第廿八云。

男依等。与近江軍。戰。息長横河。破之。延喜式。第廿
一。諸陵式云。息長陵。舒明天皇之祖母。名曰息長
足姫。近江國坂田郡。息長河。
万葉。大示我。
万葉。
万葉。
玉。横河驛。
べし。
一つとけるこほりのうへにひらくなり　廿五ウ　孟集　日本紀　○
と侍　謂ふ。
一　月ゝ人をくるしきかなとすらん名ばかりやとはひとつ
らんまひける。廿六オ　義　夕奥ゆかりのはるかなる

むらひはの中をとおしこの息所はかりのかりくるしたれ
ひくらぶくこはるよ　ゆきてくるひとまつ
をきくるとまつ　○と侍　夕
いへるは　をはるしたるむらもとのかりとおもふ
ひふくるくるもくるしたるをたたるなり。
一　ふるはの家　廿七オ　孟
わもかなまぐふことはしるはしたるとも
はうるれり。一二はの句。
家にはこ行もたるなるなるはしため
家はるはりはは家ハるはるはるは

一 相はかりて長ひしどくを我名といひてつまはくのん
万葉の長歌よ。おほとものみこと。世一オ○こと按
一 ふるとくをくるもの 世三ワ 孟 日本紀ニシ○こと按 図象此
云美都波ふるとぐもを俗字ふるとも。又ふるとの紀にへるこ
つるもとの又ふるとくをいへる。日本紀を引没八。猶考
ふる。
一 さとよきをとりひめくてくるんおとりたる。世六ウ
○こと按 日本紀
一 ふるとけ 世八ウ ○こと按 日本紀云 大捨燃燼
一 つるこけるどふく 四十オ ○こと按 兼清と。提は本訓ふるとん。
大和ものがたり。監命婦めつこれを歌をうるくるうる本

はかるなり。
一 かるこちはそくるみくるがねべはるよりうん。四十オ ○こと按
万葉巻十五。挽歌云。いめはどこ。いかんこちはそくるこ別
ものこの。
立て行ゆくへ知らにかくるそ道はおくるはるべくるる
ふれば。行ゆくるる妻みる。新古今恋三。
ひとりもつる命婦は道はおくるはるべき妻道行給
孟 放持。こばくるみ。○こと按 そがれば物
がくるる物紀用ものがたり。妻は今はたくに
もくるくるはれ紀用ものがたり。妻は今はたくに
神紀ニ。孟はそを用たり。古事記ニ。波布理と俗字
かくまるり。孟借ニ。放持こばくるみ。音ふくるるつくる常

[illegible]

一 川はやみくもとうしく 四十ウ ○と梅 敏達紀云。於是綾糟等懼然恐懼。乃下泊瀬中流向三諸岳。啟水而盟曰。云々

一 うしとおもひまぐ[illegible] 四十二ウ ○と梅 万葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

伊勢[illegible]

一 [illegible]

兼盛集。

[illegible]

交[illegible]

一 [illegible] 四十三オ ○と梅 和名抄第九。淡路國津名郡平安加阿恵[illegible]郷は名多[illegible]

[illegible]

一 いくもの人[illegible] 四十六ウ ○と梅 孟津[illegible]

人[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

○と接 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

註 [illegible]

○と接 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

五[illegible]

一 四十九日 四十九ウ 細いづくあるも刑よりもべし ○と接 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

若紫

一 [illegible]人さる山より [illegible] 二十オ ○と梅 小山といふもの [illegible]。
[illegible] 河海に万葉書二精能を見せ小
山より [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 読せ
[illegible] [illegible] [illegible] 日香園寺 [illegible] 読める
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]。
一 山はさくらもさざなりあく 三十ウ ○と梅 [illegible] 赤人の歌

[illegible] 家特集にはうく [illegible]
[illegible] 例大引べし [illegible]
[illegible] 又引ける [illegible] 寿 [illegible]
入る。
一 さらべ [illegible] [illegible] [illegible] 三十オ ○と梅 日本紀
[illegible] 二十四。皇極紀云。以水送飯 [illegible] 松繁
[illegible]。
一 [illegible] 四十ウ 河寛 [illegible]。
[illegible] 大河はべの [illegible] 寛大
の [illegible] 引 [illegible] 六帖 [illegible]
[illegible] 又大川はべの [illegible]
現本。大川 [illegible]

一 [illegible]所に毋將を立て 五十オ ○と接 佐理の日大記より詰
ひろうくろうまこしるぐ[illegible]を思ひくやくくや。
一 [illegible]おくもりわる 五十オ 河 奥 日本紀 ○と接 日本紀より
中よりおくもるとつの河をしるし。万葉にもおくもんて[illegible]ぐ。
[illegible]ると[illegible]河より[illegible]ぐ。
一 [illegible]いをやまるすもひ 五十ウ 秋 山のもりぐ。里近くく。
妻子[illegible]をつけ[illegible]。○と接
[illegible]ぬべ[illegible]
又[illegible]ぐきんたるといつる。万葉より 思
遺[illegible]。皆思ひとり[illegible]。想像を[illegible]
[illegible]ぐ。とは[illegible]
懐遺情[illegible]ぐ。

一 さいつくろ 五十ウ 孟 去 何 何頃 ○と接 記つくろと。何[illegible]
とあるぐ。さいつくろいつ。去何頃は胸能は作りなり用
べくぐ。
一 人くかいろうわうはきくれいつれむとあ。六十ウ ○と接
安弱羅。梵語。[illegible]。海[illegible]翻をわがいろう天。安弱羅
龍王[illegible]。[illegible]。万葉[illegible]九。[illegible]
いとひ[illegible]。
一 つつたいつくらわぐ[illegible] 九十ウ 河 頬面 オモヤウ 接勞 メケ 日本紀
○と接 [illegible]六年。日本紀より[illegible]
一 いわる十五日 十一ウ ○と接 [illegible]
[illegible]年[illegible]。[illegible]。[illegible]
一 さくら[illegible] 十四ウ ○と接 賢良 サカシラ 万三 情進 ロ 情出

一 [illegible] 十七才 河[illegible]紅白梅。○
[illegible]梅 [illegible]
万葉の歌十二首。紅梅[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 佛[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
つゝへ[illegible]
[illegible]日記[illegible]八月十五夜[illegible]

の歌[illegible]
[illegible]
[illegible]井[illegible]
一 名もちゝめ[illegible]
けら[illegible]十八才
○今按 朗詠野草芳非紅錦地 名もちゝめい[illegible]
花[illegible]川を[illegible]
一 [illegible]の松の[illegible]
細山[illegible]
[illegible]万葉[illegible]十一
[illegible]の山[illegible]戸を[illegible]
[illegible]

さてはまかりあけてとらいつるかへりてあるべき誰とかいたん
ハ。云ほんの花ゝう宿のあるまゝにけまとうつを取てうゞ待
兄をとりつゝあもさきにてまゝ彼樓の刀ハ。けゝ弁を取らしう
ゝうあらべきよかへりてゝを彼刀法といハ。類例せを。
孟津よ宣孟の奇の下刀をもこれ花の父を見ゝ。
ゝあるハ。暗記のあやまりなれ。傳寫ハ誤をぶく山ハ松の扉
ゝハ。方寸よ

十一 奥山ハまゝ本ハ板戸を押ひきゝ多やゝ出こねほかなせん

十四 奥山ハまゝ本の板戸を書はゝ姉ゝあらハ出ハ出るねね
ゝくゝのハ板戸を記ハ板戸を記ぶゝとゝてゝゞひかゝよ入ゝ出ゝるさね
あるゝハ。ゝ本ハ板ゝ山よ有板なゝかゝゞ山ゝるゝ山ゝ
つゝゆやゝなるゝ所ゝかるゝひてゝあゝ花のゝ海と詠ゝ所

サ一

任撰集下
與風集
拾遺

さゝ花ゝよめゝるゝ鳥ゝ
一すきをゝゝゝ

なり。花はあるうへのパの字よりおとるべし。○とぶ梅　源氏
は帝よりの文をかくるとて花をとぶ梅とて花は梅
よりも色はまさるけれども尼こそ花の
あるうへの字ぞ。はなやかなる。花はあるうへ
色にてよきかけれども。ちりぬるまの字
なるべきなり。
古今　春のよりうぐひす名に負ふ野べの梅をたづねて
返歌　たづねくるかぜ花をうしなふ野べの梅をとはこそ
上はなほ花をうしなふ野べの梅をとはこそ
けるにくからぬなりして廿二オ○今梅　氣不要
てひとしのよいあまり物なり。

一　かりたるはつるき物をやあらん　廿四オ　與入
　　春とてとぶ人よりまさるとぶ梅つきのとりあん
○今梅　ひ手行くと出るる　ハ　ぬ
　　ふるもつき梅はなけれどかくてきてもぶぬはつるき物まで有ける
　　我宿をたれかとぶ羽をとりぬはつるき物まで有ける
一　西うげハ才をもとりぬ山梅ぬれうだり山ありてこうげ　サ五ウ
○今梅　我ぬけるぬ用ぬ　をバ山梅のりとよりあてこう物と付
　　のぬけるよりてわもうげの立てをうぬりより。
一　うぐだうぐうはん　廿七ウ　河　車計　為与　万葉○今梅　河ぬる。
　　引きへう。万葉ぬ与ハ。ぬ　ぬかりをもうて。ぬハ用ぬけるぬ　誤り。
日本紀ヨ　慮　計。測。方便。さりとぬ結ぬぬるとよりて。
　　はるとよわ。

一なるものよりてしるひつ　廿八ウ　○今按　六帖
ゆくさ　ばかりとまりのもりは山ものきくゆるを手をきるれん
注
一ものすく人をやかく　廿四オ
漢入のあり　多少私ようりおほしこれをこれ思ひ
○今按　是ハ誤なり　万葉
十一　漢入のあり　多少私ようり　我はりの者をあるこ今も
十二　漢入のあり　多小私ようり　我を　者思の私
かくれしるるれば　奇よあるべし　古今
嫁はこそ　ものすく小私ようり　ものこひしるれん
一　なけのはその繁　廿六オ　○今按
技技　六帖　なけるものとこそ思ひ　者思ひ
こ　者まばなけのしるとこ　思ひ人　かるる物

並盛葉
なけ　我人　なけるものしるの　何人　つくしる　人
一人つあるで　写しあるせだや　廿六ウ　○今按　技技
いるてかるものてふこもだでの人　だてるもだ　あるもだ
一　ものるの　細　茂　なるれよ　わるれ　浦　るるるる

如あくまけば。古事記にも。武雷神。建御名方神
は。洛をとられまいぞと。葦はらをつかんで。又万葉にこの
うたは。葦原の足痛吾勢こそ別ほとを。
一いざ　世ウ　孟　率　伊勢物語　○と轉　伊勢物語のごとく。
いさこいくこ紅の玄束といつたごとく。そこに紅の牽は
字。日本紀。万葉等にいざこはふ。
一さけひざをうつ。酒とはのりなり。世七ウ　○と轉　史記樊
噲傳云。上獨枕一宦者臥。日本紀第六垂仁紀云。
時天皇。枕皇后膝。而晝寢。同仁徳紀云。俄而隼別
皇子枕皇女之膝。以臥。万葉第五琴娘子奇云。
いとはりんの日は知ふもうるもむ人はけいざのくるぞきてこそ
同第七。宴の日本琴歌云。

ひさまふるはは小琴はふとかぐるりるぞうしはめとも
一いうきうわるるもも　四十オ　○と轉　多ハ。截ハ。截流ハ。
神よりていの紅ふ。神ものるるるる。截ハ。截流ハ
いの紅ふ。庭はうをさんざこそ。障截ハ。今うる
きうわるるいの。雪はうるる神みくいつまうそきふと
いの甫みく人ものくはは作ものる。
ものあのものきうるいつるる林は雪はよ雪ふるはは
一朝ぐはきうるいものはもひみも行るこぐ行れ行
○と轉　雪はは三ものるいつ。道とるるるるる。万葉
十一。
妹ぐかぐ行ものて三ものる林は風ものれ。いつんはるる
後ものるはは雪ものるはるるるるる。

一 立ちかり寄せの新はきをぶるべきもせず。四十ウ
○ヶ梅 寄せるべき紀こと。寄せの梅とをへて。こと。垣は
おとるべきいみさくまた紀こと。万葉で前垣とも。ふべきへの
うれすり。美家万葉で。
家ことにしあれば。しをへて寄せまぶ紀こと。かるるん
さやうもけさ人ぞ。をへて寄せまぶ紀たちかく行つ
著舟集
山里と書けまぶ紀はつてそぶをちる人は神もこと
一 学けまぶ。平ウ ○ヶ梅 ほ梅 五五
いとくまぶ。
一 ぶるべきもいしくきぶるべる。四十ウ ○ヶ梅 ぶるべ
ハ居者は病のもの。相つれは書みるべ。ぶるべ。

河海と。央は字と。山ばたなめ。ぶるべ。
まぶ万葉十五。
人間寺の垣おしまぶ紀。
たきつ波へまぶ紀。
ひは紀こと八。世十二ふもい。初はこまつ。梅ちまぶ
こと。ふるもいしまぶ。ひは紀ふ。
は梅。ふるまぶ。ひは紀。
たちこと八。ふ紀こと。ふるもいしまぶ。
えぬ字まぶ。
一 ふべめひしは紀ぶ。四十六ウ 細 衣架ぶ。
引きけこと。○ヶ梅 蜻蛉日紀と。ひは紀ぶ。経ひは紀ぶ
ぶ行。提は字みこと。ふ。ふ。持ぶ。

末摘花

一　三才　河王家無等論○と雖　論の子と。
倫ける家を写し誤きらるり。世雄無等倫。妙智無等倫
等皆如是。そは王家無等倫の義なるべしと。
ぐ。うるべしとも。又むけ写ハ。
しかむ。むかりとへ付ける。読べ如理なり。百済王禅廣
けるを。百済王某乙と。ひけるを略して。王とひけるを。
王家といへ。音便よりんもいへ。催
こるなるべしと。
けるが。延喜式よ。中納言真世王ける。王家
王氏とへる。又極武天皇ける。

親王ける。ひけ氏と。
氏と王家とへ。
ちく。
沙説。
末摘ける。
陰ける。
一　きんをそ。
ける。
ける。
ける

一ものの変ずるを今ひとくさやうにそうてん。四丁オ　細河の流
詩ばかりにて。但漢詩のつゝまで後段。○ヒ按　細河の
説下後。但詩をかゝるにはよろしからぬ。
流もまたつゝまでいつぐ後ゞ詩とかゝるにくらん
ゝ。漢ハまたつゝまでのゝ。
一うゝゝゝかゝるかでばけ。四丁ウ　○ヒ按　かでばけ。
うゝ記ゝ。ばかりとなるゝ。
ゝく。無ゝ身をかへるとゝ。
ゝゝ。

一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。九丁オ　○ヒ按　和名抄云。兼名
苑注云。籥以竹為之。今案。所謂高籥。用除吹處而六
孔之笛也。

一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

仮撰ス

一 [illegible] 十七才 ○ヒ梅 主言。
進退あ[illegible]中ニ[illegible]ハ侍[illegible]
[illegible]日本紀ニ棲遑ト[illegible]進退ヲモ[illegible]
[illegible]ヒテ[illegible]

一 [illegible] 十九才 ○ヒ梅 和名抄云。史記。
廉頗強飯斗酒食肉十斤。飯音符萬反。[illegible]作飯強飯和名古ハ伊比。
一 [illegible] 廿才 ○ヒ梅 [illegible]
[illegible]

一 [illegible]

○ヒ梅 仮撰ス信[illegible]相[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
細 光[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
中さぐのもぐ サウ ○ヒ梅 [illegible]
一 [illegible] サイオ ○ヒ梅 万葉集十一
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible] サウ ○ヒ梅 [illegible]

[illegible]

一くさるもの　廿二ウ　河　腐　クダス　○と梅　汁滓の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 廿四ウ 面 衡黒 ○と様 はの字何ぞ
[illegible]紀に凌晨とかけるとあり。
一はるかなるをゆるりのはるかなるをはるかなるとかけるを
色づかるる。廿五オ ○と様 和名抄云 酸 鼻野 玉篇 酸音砌
和名美波 [illegible]岐 鼻上皰也 俗に石榴鼻なるをいふ。
同和名云 唐韻云 痤 昨禾反 和名迮岐美 小癤也 つぶくさもの
とはよはるるをいふ。
いろ美はべし。
一いろも雪をづくしなるべし。廿五オ ○と様 結帯
見記に[illegible]なるべし。雪をづくし霜をづくし 万葉十六 伯物語
人をば使者なるをいふ。
一ふるはよかるべしとぞ。廿五ウ 河 又拾遺云 中文女子

ふるをばかかるべきなどと高貴なる将入道殿[illegible]
ける。
[illegible]
○と様 [illegible]
一おもしろの[illegible]出るを。廿七ウ ○と様 橋井蓋丹
といふ人のもとにはるを[illegible]荷出るを[illegible]
うかがはるるなり。
一けはよきものもうるぬ。廿九オ ○と様 [illegible]
らぶらいへるをいふ。
一[illegible]やうにあるを[illegible]
と様 [illegible]
一つまるしたる。三十オ ○と様 厚肥[illegible]

人はさくふとりたるよ。仰てふ。

一 ゆかゝ衣きさぶさゝろ姿 三十オ ○ヒ梅 美ゝとつけゝり。

一 神されやさん 三十ウ ○ヒ梅 引歌ハ万葉第十九。

一 久こ紀ゝとそゝぐも 廿オ ○ヒ梅 ひゝ引歌。何ゝ出ゝ。

未見及下ゝ。古今雜躰よりゝ歌。ゝ望ゝ。

ゝゝ引ゝ歌のゝり。

一 ゆゝひゝゝゝゝゝゝ 廿一ウ 河 疋如 白氏文集 ○ヒ梅 匹如

身ゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]

一 うらくらんなん。 廿六ウ 孟 うへれんなんとまもうるべし

とけなく○と接 は注なり。歌は堪なりもしあきの

田ばに赤まは野塩田をべしくくく

ぶさんしてるく。

一いつてくかきこそうるわる梢はいかに
恋さうんとむけとる紅葉。

○と梅 諸本如此

一かい名こそうるる 世六ウ ○と梅 恐咲 枝仙窟 歛咲 日
わくるかぜいつわ俗はかわ頬咲すべしはくしくさ歛
りくとうつくさで赤はびくくうふかぐこ。頬ふきくうそれ
さ海は紅ちくくぬゆくむ。又含はるる。古語ふくむ。ちく
あわ赤はりと。恵神ちるはけりくるふるふかもくれ咲
たちとぶくくあすくるもくく。

原注中